

分子研一般公開 「分子科学への招待」

岡崎国立共同研究機構では3つの研究所で毎年交代で研究所の一般公開を行ってきたので、各研究所にとっては、一般公開は3年に一度の大きな行事である。ちなみに前回の3年前の分子研一般公開では中村宏樹教授が、また、6年以前の時には斉藤修二教授（当時）が実行委員長であったようで、年配の先生が実行委員長の任に当たるといった慣習があるようで、今回も同じ理由で、小林に委員長のお鉢が回ってきて、この文章を書くことになった。しかし個人的には前回の分子研の一般公開の際には私の研究室は揚げて外部に用事があったので、参加していない。また、前々回の事は殆ど記憶になく、些か頼りない状況であったが、何事も動き出してしまえば……と言うことで、6月13日に最初の一般公開実行委員会が開かれ、公開展示班（班長：横山教授）、講演会班（班長：中村助教授）など、各分担者が決まると、後は、実行委員長は殆どすることがなく、大抵は庶務課が各実行班の責任者と連絡を取りながら、作業を進めてくれたので、こんな楽な役目はない……と言う状況で恐縮であった。

しかし考えてみると、来年から岡崎国立共同研究機構の名称はなくなり、分子研は基生研、生理研とともに自然科学研究機構に属することになる予定であるから、今回の一般公開は、岡崎国立共同研究機構にとっては、多分、その名を冠した最後の一般公開と言う重要な区切りの行事と言うことである。研究所の地域との結びつきの重要性や、社会（納税者）に対する説明責任を果たす努力はこれまでも良く言われてきた事ではあるが、機構名が変わり、国立天文台や核融合科学研究所のように研究所の目標が一

般社会からも非常に理解され易いと思われる研究所と同一の機構を作る事になると、分子研としても今後益々一般社会にも広く通用する「評価」の獲得を意識せねばならなくなるものと予想される。庶務課および技術課長（副委員長）からもらった情報によれば、一般公開の10日程前に岡崎市政記者会および岡崎新聞記者会の方々に本公開について説明会を開き、広報担当の先生などが、一般公開の概要や、同日平行して進行する岡崎市内中学（18校）を対象としたサイエンスレンジャーの企画（科学実験・科学工作の体験学習）についてその概要の説明を行うという機会を持ったが、その時参加していた記者から（「生」のまま印刷されるのは、多少気になる言葉ではあるが……敢えて書かせて頂く事とする）「岡崎という名前がなくなるのですか……。三河には誇れるものが3つある、家康、国研、高校。岡崎という名前が消えるのはとても残念……」という発言があったとのことであった。専門的な学問とは別次元からの評価ではあるが、ともあれ公表され、岡崎市民の耳目に達している岡機構のこれまでの様々な「実績」が地域でかなり満足すべき評価をもらっていることの一つの表れと解釈できるものと思われる。今後はより大きな機構の中の研究所として、全国的な規模で分子研あるいは分子研で行っている分子科学が評価されるよう、努力していくことが要請されることになるのであろう。また、岡崎市民への一般公開に関する広報としては、（株）FM岡崎が「分子科学研究所 分子科学への誘い」と言う特別番組を放送してくれた（10 / 19日）が、これには分子研からは一般公開当日、講演をお願いした、



青野教授、多田助教授、猿倉助教授に出演をお願いした。感謝申し上げたい。

一般公開の25日当日は、日差しは強くは無かったが一日晴れて幸いであった。9時20分の所長の開会宣言の少し前から見学者が見え始め、最盛期には分子研のあちこちで見学者の大きな固まりが見られるような盛況であったようである。受付を置かなかった東門から見学に来られた方もかなり居られたとの事で正確な参加者数の把握は困難であるが、今回、およそ1600名程度の見学者があったとの事である。

本文章は原稿提出の締め切り日(一般公開の前日)が既に過ぎていたとの事で、一般公開の翌日に急ぎ書いているので、見学者のご意見、感想などについての集計結果を参照することは出来ていない。当然であるが、個人的には、見栄えのする大型の装置や最新装置に興味を集めていた様に感じられた。しかしまた同時に、小・中学生の参加者には自分達も簡単に参加(実験)できる展示が強い関心を集めてい



たようである。

今回の一般公開ではコンファレンスセンターに設けた展示場所での一般公開に参加してくれた統合バイオサイエンスセンターのメンバーを含む分子研の実験系および計算科学研究センター(および理論系) UVSOR、装置開発室等々の皆様は勿論、技術課および管理局の職員から多大なご協力を頂いた。特に管理局の庶務課には計画段階から全体の調整、指揮を全面的にお願いすることとなった。また、岡崎高校からはスーパーサイエンス授業に関係して生徒の参加などのご配慮を頂いた。また、同日、平行して行われた岡崎市の中学生を対象としたサイエンスレンジャーによる科学実験の催しでは、東啓一氏は勿論、引率の先生方にも多大のご協力を戴いた。講演をお願いした青野教授、多田助教授、猿倉助教授や実行委員は勿論、関係された皆様全員に厚く感謝申し上げます。

一般公開実行委員長
小林速男

